

第 37 回 北陸リウマチ・関節研究会

H20.7.13

RA に対するセメントレス THA の術後中期成績

福井大学器官制御医学講座整形外科学領域

根来航平 小久保安朗 彌山峰史 宮崎剛 馬場久敏

【目的】当科で行った関節リウマチ (RA) に対して施行したセメントレス THA の中期成績について *retrospective* に検討を行ったので若干の文献的考察を加えて報告する。

【症例】1987 年 8 月から 2003 年 3 月までに当科において RA に対し行われた THA は 52 例 71 関節であり、そのうち 11 例 13 関節にセメントレス THA を施行した。これらのうち 5 年以上経過観察が可能であった 9 例 11 関節を対象とした。全例女性で、RA : stage II 3 関節、III 4 関節、IV 4 関節、class II 3 関節、III 8 関節。平均罹病期間は 12.2 年 (5~31 年)。手術時平均年齢は 56.4 歳 (44~75 歳)。術後平均経過観察期間は 8 年 8 ヶ月 (5 年~13 年 8 ヶ月) であった。使用した機種は stem が osteonics 社製 omnifit 4 関節、omniflex 5 関節、FMS 2 関節で、cup は Dual geometry 型 9 関節、PSL 1 関節、ATH 1 関節であった。臨床評価項目として JOA score と thigh pain の有無を、X 線学的には bone reaction 及び implant stability について評価を行った。

【結果】JOA score は術前平均 36 点から 78 点に改善した。Thigh pain については最終調査時に 1 関節認めた。X 線学的には 72.8% の症例に spot welds を認めた。また cup, stem 側ともに進行性の radiolucent line はなく、全周性に至るものは認めなかった。Osteolysis は stem 側 zone1 に 1 関節みられた。最終調査時において再置換術に至ったものは認めなかった。

【結語】RA の股関節症に対し、初期固定を如何に獲得するかが重要な点であり当科では比較的若年で骨質が十分と考えられるものや、RA を基礎疾患に持ち、画像上 OA を呈するような症例にセメントレス THA を行ってきた。今回の術後中期成績は再置換術に至ったものはなく、満足すべき結果であったが全体の約 30% に Engh の分類での grade 3 に相当する stress shielding を認めていた。臨床的に問題なく、画像上 loosening を来していない症例においても慎重な経過観察が必要と考えられる。